

# 高城地区

南北に細長く伸びる高城地区は、鰐塚山系からつらなる山間部が大半を占め、西には大淀川、東には大淀川支流の有水川が、北には大淀川支流の八久保川が流れています。地区には旧石器時代から江戸時代までの遺跡が数多くの残されています。

## ①山日和城跡 (大井手) 中世 柱 駐

室町時代に肝付氏によって築かれた城で、当時は「三侯院兼重城」とも呼ばれていました。南北朝以降、このあたりの戦の拠点となったお城です。現在は、高城郷土資料館が建てられ、高城地区の歴史資料が展示されています。



高城跡周辺の航空写真(昭和22年米軍撮影)

## ③城ヶ尾遺跡 (石山) 縄文 弥生 古代

ゴルフ場をつくる時に発掘調査を行いました。縄文時代・弥生時代・平安時代の集落跡です。特に、弥生時代の重弧文器台と呼ばれる筒型の土器はとても珍しいものです。



重弧文器台  
上に壺などをのせる台

## ②高城町古墳群 (大井手・石山・有水) 古墳 中世 柱 駐

前方後円墳3基、円墳19基が県の史跡に指定されています。このうち大井手にある古墳群は、県指定以外の地下式横穴墓や箱式石棺墓なども含め、牧ノ原古墳群と呼ばれています。1箇所の古墳群の中に様々な種類のお墓がつくられたのは、全国的に見ても、とても珍しいといわれています。



牧ノ原古墳群周辺航空写真 ○が古墳



箱式石棺墓  
赤い顔料が塗られている。



木棺墓  
木の棺は腐ってしまい残らなかった。

## ④細井地区遺跡群 (有水) 縄文 弥生 古墳 古代 中世 近世

農地を整備する工事に発掘調査を行いました。山城第1遺跡では縄文時代(後期・晩期)の竪穴住居跡が50軒以上見つかり、当時人々の暮らしをすることができました。特に、上原第3遺跡、山城第1遺跡では縄文時代の装身具が見つかっています。



縄文時代の装身具(アクセサリー)



山城第1遺跡の縄文時代の住居跡



上原第1遺跡：古墳時代の土器(左：甕 右：ハソウ)

左：土器上部の片方が注ぎ口になっている。

右：中央の孔に竹などの筒をさして使った。土瓶のようなイメージ。



### 【そのほかの遺跡と史跡】

縄文時代：高八重遺跡

古墳時代：高取原地下式横穴墓・香禅寺遺跡

古代・中世：真米田遺跡・七日市前遺跡

中世：小山城跡・間ヶ塚・將軍山・石造多宝塔・大築古戦場跡

諏訪馬場古戦場跡・石山越古戦場跡・石山観音寺・石山戦場川原

石山城跡・有水備前守碑・下ノ城跡・須田木城跡・井之城跡

平八重城跡・本八重板碑群

近世：旧後藤商家・石敢當・二十一夜待碑・石山寒天工場跡・定清池水神碑・石山中方庚申碑・石坂碑・有水庚申碑・薩摩街道

## ⑤田辺かくれ念仏洞 (有水) 近世 柱

江戸時代に浄土真宗(一向宗)の信者たちが、隠れ、祈った場所です。この田辺かくれ念仏洞は、40名以上が入れるほどの大きさです。



田辺かくれ念仏洞の内部

## ⑥雀ヶ野遺跡群 (四家) 旧石器 縄文 柱

変電所をつくる工事に発掘調査を行いました。旧石器時代の終わり頃から縄文時代にかけての遺跡です。宮崎平野と都城盆地の間の山地における当時の人々の暮らしを知ることでできる遺跡です。



細石刃と尖頭器の使用想定図

雀ヶ野遺跡では両方の石器が出土した。



尖頭器

(槍の先につける石器)

